

1. 学校教育目標	One for all, All for one 個人と社会の幸福の追求 「ありがとう」と言われる人・言える人が育まれる学校
2. めざす生徒像	強 く…責任ある行動がとれる「自律」した学び手 正しく…対立やジレンマを調整する「尊重」し合える学び手 美しく…新しい価値を生み出す「創造」しようとする学び手
3. めざす教師像	学習指導…授業を通して、生徒に確かな学力を育むことができる教師 生徒指導…授業を通して、生徒の生きる力を育むことができる教師 組織経営…「チーム錦中」で、令和の日本型教育に臨み続ける教師
4. 加賀市学校教育ビジョンから学校教育目標を捉える	BE THE PLAYER…教師がチームとして錦城中学校がめざす生徒を育むことを通して「世界」を変える
5. 今年度の重点目標	教師が、真に思考力・判断力・表現力がつく授業の追究を通して学校教育目標を実現する。

評価項目	①教育課程 学習指導			
今年度の重点目標	真に思考力・判断力・表現力がつく授業を追究する。			
具体的取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導の専門家として多様な生徒一人ひとりの資質・能力が育まれる授業のために授業（教材等）研究をする。</li> <li>・資質・能力、興味・関心、性格、家庭的背景など多様な生徒一人ひとりを理解する。</li> <li>・確かな教材研究と深い生徒理解をもとに、授業者が適時・適切な見取りによるフィードバックをする。</li> <li>・授業者による適切なフィードバックにより多様な生徒一人ひとりの学びに向かう力・関心・意欲が高める。</li> <li>・学びへの関心・意欲の高まりを通して多様な生徒一人ひとりの思考力・判断力・表現力を高める。</li> <li>・各種学習調査、テストの推移で思考力・判断力・表現力の高まりを検証する。</li> <li>・ScTNアンケートの「本物の学び」項目の②の70%をめざす。</li> </ul> 授業では、「授業を進（すす）めるのは、先生ではなくて、自分だ」と思いながら学んでいる。			
主担当	主幹教諭・研究主任			
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自分の学びを客観的に捉えられるよう、授業をはじめとしたさまざまな場面でメタ認知を取り入れた。</li> <li>・すべての生徒が「自律した学び手」となる授業までには至っていない。</li> <li>・一部の生徒ではあるが、思考力・判断力・表現力の低さが学校生活を困難にさせている。</li> <li>・ScTNアンケートの「本物の学び」項目の②をの52.7%（R7 1学期）</li> </ul> 授業では、「授業を進（すす）めるのは、先生ではなくて、自分だ」と思いながら学んでいる。			
評価の観点	(成果指標) ・授業中、適切なフィードバックが行われている。 <table border="1" style="float: right; margin-left: 20px;"> <tr> <td>(努力指標)</td> </tr> <tr> <td>・授業（教材等の）研究に努めている。</td> </tr> <tr> <td>・生徒理解に努めている。</td> </tr> </table>	(努力指標)	・授業（教材等の）研究に努めている。	・生徒理解に努めている。
(努力指標)				
・授業（教材等の）研究に努めている。				
・生徒理解に努めている。				
実現状況の達成度判断基準	「授業では、「授業を進（すす）めるのは、先生ではなくて、自分だ」と思いながら学んでいる。」と答えた生徒の割合が、 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満			
判定基準	C、Dの場合は指導法の再検討を行う。			
備考	ScTNアンケートを1・2学期に行う。			

評価項目	②生徒指導			
今年度の重点目標	新規不登校（社会と繋がらない）生徒を出さない。 8割の生徒が、「学校が楽しい」と言い切る。			
具体的取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導の専門家として多様な生徒一人ひとりの資質・能力が育まれる授業のために授業（教材等）研究をする。</li> <li>・資質・能力、興味・関心、性格、家庭的背景など多様な生徒一人ひとりを理解する。</li> <li>・確かな教材研究と深い生徒理解をもとに、授業者が適時・適切な見取りによるフィードバックをする。</li> <li>・授業者による適切なフィードバックにより多様な生徒一人ひとりの学びに向かう力・関心・意欲が高める。</li> <li>・学びへの関心・意欲の高まりを通して多様な生徒一人ひとりが主役となる授業を実現する。</li> <li>・多様な生徒一人ひとりが主役となる授業の実現を通して新規不登校ゼロをめざす。</li> <li>・ScTNアンケートの「学校教育の充実感」項目の⑬「学校が楽しい」の言い切り80%をめざす。</li> </ul>			
主担当	生徒指導主事			
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の学校生活アンケートでは、「学校に行くのは（どちらかといえば）楽しい」、「まわりの人に（どちらかといえば）親切にしたり優しくしたりしている」の2項目では高い数値を出していることから生徒も学校生活に過ごしやすさや楽しさを実感していると思われる。ScTNアンケート調査でも「学校が楽しい」の肯定的回答が87%（楽しい53%、どちらかと言えば楽しい34%）となっている。</li> <li>・しかしながら生徒の「学校の楽しさ」は、必ずしも授業・生徒会活動・部活動など学びの部分より休み時間の「鬼ごっこ」など遊びによる「学校の楽しさ」と言え、その傾向は学年が下がるにつれ高くなっている。</li> </ul>			
評価の観点	(成果指標) ・授業中、適切なフィードバックが行われている。 <table border="1" style="float: right; margin-left: 20px;"> <tr> <td>(努力指標)</td> </tr> <tr> <td>・授業（教材等の）研究に努めている。</td> </tr> <tr> <td>・生徒理解に努めている。</td> </tr> </table>	(努力指標)	・授業（教材等の）研究に努めている。	・生徒理解に努めている。
(努力指標)				
・授業（教材等の）研究に努めている。				
・生徒理解に努めている。				
実現状況の達成度判断基準	「学校が楽しい」と言い切りで答えた生徒が A：85%以上 B：80%以上 C：75%以上 D：75%未満			
判定基準	C、Dの場合は取り組み方法の再検討を行う。			
備考	ScTNアンケートを1・2学期に行う。			

評価項目	③キャリア教育・進路指導	
今年度の重点目標	9割の生徒が、悔いのない（最終的に第一希望の）進路選択をする。	
具体的取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導の専門家として多様な生徒一人ひとりの資質・能力が育まれる授業のために授業（教材等）研究をする。</li> <li>・資質・能力、興味・関心、性格、家庭的背景など多様な生徒一人ひとりを理解する。</li> <li>・確かな教材研究と深い生徒理解をもとに、授業者が適時・適切な見取りによるフィードバックをする。</li> <li>・授業者による適切なフィードバックにより多様な生徒一人ひとりの学びに向かう力・関心・意欲が高める。</li> <li>・資質能力、学びに向かう力・人間性の高まりを通して多様な生徒一人ひとりが自己実現のための進路選択をする。</li> </ul>	
主担当	進路指導主事	
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生でも、自己実現・進路選択の意識は低く、キャリア教育について全学年で伸びしろ・やり残しが目立つ。</li> <li>・進学には「テストの点数を上げること」を重視し、人生100年時代の「自律した学び手」になる意識が低い。</li> </ul>	
評価の観点	(成果指標) ・授業中、適切なフィードバックが行われている。	(努力指標) ・授業（教材等の）研究に努めている。 ・生徒理解に努めている。
実現状況の達成度 判断基準	結果はともかく「悔いなく」進路選択をした生徒が A：95%以上 B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満	
判定基準	C、Dの場合は取り組み方法の再検討を行う。	
備考	3学期に確認する。	

評価項目	④安全指導 1防災	
今年度の重点目標	避難訓練や防災に関する学習活動を通じて、大きな災害から、生徒自らが身を守ることができる姿勢、行動、判断力を育成する。	
具体的取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期に1回、2学期に1回の目安で避難訓練を実施する。（内1回は火災、1回は震災を予定）</li> <li>・3年生の修学旅行の際、防災センター見学・学習の実施。</li> <li>・不審者対策防犯訓練（職員向け）の実施。</li> <li>・防犯教室の実施。</li> </ul>	
主担当	防災担当者	
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能登半島地震を経て、多くの生徒が震災に関して考える機会があったと感じる。特に、地震の怖さ身近さ、その後に起こりうる災害による自分達の生活について大きく考え方が変わったのではないと思う。いつ、どこで、どのような形で起こりうるか予想できない日々の中で、常に危機意識を持たせることが必要と言える。昨年は2回の避難訓練を行い、意識の向上を図った。生徒は緊張感を持ってしっかりと臨めるようになった。また抜き打ちで避難訓練をすることで、本番をより想定した訓練になると思う。</li> </ul>	
評価の観点	(成果指標) 防災に対する意識が高まり、防災訓練等に緊張感を持って臨むことができる。	
実現状況の達成度 判断基準	防災訓練および研修を通して防災に対する意識が高まったと答えた生徒および職員が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	
判定基準	生徒、職員ともにC、Dの場合は取り組み方法の再検討を行う。	
備考	生徒調査を1・2学期に行う。	

評価項目	④安全指導 2交通安全	
今年度の重点目標	自転車通学生のヘルメット着用および交通ルールの徹底を図る。	
具体的取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校指導や集会での呼びかけ等を通じ、交通ルールの徹底を図る。</li> <li>・交通事故が起こった場合はその事例を生徒に知らせ、通学路の危険な場所を周知させる。また、通学路のなかで危険な場所がある場合は通学路の検討、改善を行っていく。</li> <li>・一時停止の標識がある交差点を教員間で共通理解、生徒との確認を集会を通して行う。</li> </ul>	
主担当	交通安全担当者	
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・98%の生徒がマナーやルールを守っていると答えているが、ノーヘルや並列走行が多々見られる。</li> <li>・改正道路交通法についての知識・理解が低い。</li> </ul>	
評価の観点	(成果指標) 改正道路交通法のテストを実施する	
実現状況の達成度 判断基準	改正道路交通法テストの正答率が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	
判定基準	C、Dの場合は取り組み方法の再検討を行う。	
備考	調査を2学期に行う。	

評価項目	⑤保健管理 1健康・成長
今年度の重点目標	心身の健康について関心を持ち、生涯を通じて主体的に健康的な生活を送ることができる生徒を育成する。
具体的取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自分の生活習慣を振り返り改善できるよう、1年に1度、セルフチェックを1週間実施する。</li> <li>・セルフチェックの結果は印刷し、保護者面談の際に保護者に渡し、生徒の実態を知らせるとともに生活習慣改善に向けて協力を仰ぐ。また全校の結果を集計し、便りを作成して生徒や保護者に周知する。</li> <li>・生徒の健康課題に即したテーマで学校保健委員会を開催する。</li> </ul>
主担当	保健主事
現状	・セルフチェックの結果、午前0時以降に寝ている生徒が約20%、睡眠時間が7時間未満の生徒が約17%いる。朝食の摂取状況については、毎日食べている生徒が約90%いるが、全く食べていなかった生徒も1学期は7名、2学期は10名いた。生活習慣の改善が必要な生徒への個別指導を引き続き行うとともに、学期末保護者懇談の機会を利用し、保護者に現状をお知らせし生活習慣改善に向けて協力を仰いでいく必要がある。
評価の観点	(成果指標) 保健指導を通して、健康な生活習慣の確立に向けて、生徒及び職員の意識が高まったか。
実現状況の達成度判断基準	規則正しい生活を送るよう心がけたと答えた生徒および生活習慣改善へ向けての指導を実施したと答えた教職員が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満
判定基準	生徒、職員ともにC、Dの場合は取り組み方法の再検討を行う。
備考	生徒および教職員調査を1・2学期に行う。

評価項目	⑤保健管理 2食・健康
今年度の重点目標	計画的に食に関する指導を行うとともに、給食時間における指導の充実を図る。
具体的取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食に関する指導については、栄養教諭が中心となり、各学年に応じた指導を行っていく。</li> <li>・給食委員会の活動を通して、生徒同士で給食についての企画や感謝の気持ちを伝えあう機会を増やす。</li> <li>・給食時間の指導について、(準備や配膳、片づけを含む)年度初めに教職員で共通理解を行い、適宜反省を踏まえ再確認を行う。</li> </ul>
主担当	栄養教諭
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・85%の生徒が苦手なものでも少しは食べるようにしていると答えており、多くの生徒が栄養バランスを考えて給食を食べていると思われるが、給食時間の様子を見ると、苦手なものは口にしない生徒も、少数ではあるが存在するので、継続的な指導が必要である。</li> <li>・教職員の生徒への積極的な働きかけがされているが、学級によって準備時間や残食量などに差が見られるので、今後も教職員間の共通理解が必要である。</li> <li>・行事食や郷土食を給食に取り入れることにより、生徒の食への興味関心を増やそうとしている。</li> </ul>
評価の観点	(成果指標) 生徒は栄養バランスを考え、給食を食べるように努力できたか。
実現状況の達成度判断基準	栄養バランスを考え、給食を食べるように努力できたと答えた生徒、及び働きかけができたと答えた教職員が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満
判定基準	生徒、職員ともにC、Dの場合は取り組み方法の再検討を行う。
備考	生徒および教職員調査を1・2学期に行う。

評価項目	⑥特別支援教育・教育相談
今年度の重点目標	真に思考力・判断力・表現力がつく授業を追究する。 新規不登校(社会と繋がらない)生徒を出さない。 8割の生徒が、「学校が楽しい」と言い切る。
具体的取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導の専門家として多様な生徒一人ひとりの資質・能力が育まれる授業のために授業(教材等)研究をする。</li> <li>・資質・能力、興味・関心、性格、家庭的背景など多様な生徒一人ひとりを理解する。</li> <li>・確かな教材研究と深い生徒理解をもとに、授業者が適時・適切な見取りによるフィードバックをする。</li> <li>・授業者による適切なフィードバックにより多様な生徒一人ひとりの学びに向かう力・関心・意欲が高める。</li> <li>・学びへの関心・意欲の高まりを通して多様な生徒一人ひとりが主役となる授業を実現する。</li> <li>・SeTNアンケートの「本物の学び」項目の②の70%をめざす。 授業では、「授業を進(すす)めるのは、先生ではなくて、自分だ」と思いながら学んでいる。</li> <li>・多様な生徒一人ひとりが主役となる授業の実現を通して新規不登校ゼロをめざす。</li> <li>・SeTNアンケートの「学校教育の充実感」項目の③「学校が楽しい」の言い切り80%をめざす。</li> </ul>
主担当	特別支援教育コーディネーター・教育相談担当
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校、別室登校の生徒数は昨年度から大きな変化はないが、2学期ごろから欠席数の積み重ねで微増する傾向にある。別室登校については、教職員全体で対応するシステムが機能している。SSRの設置により、生徒の個々の状態に合わせた対応をしているが、他の生徒や教員との関係性によって対応が難しい部分もある。</li> <li>・支援を要する生徒に関しては、課題や支援の方法について、全教職員の共通理解が図られており、二次障がいへの未然防止にもつながっている。</li> <li>・通常学級における支援を要する生徒は増加傾向にあるとともに、支援の多様化が課題になっている。</li> </ul>
評価の観点	(成果指標) ・授業中、適切なフィードバックが行われている。 (努力指標) ・授業(教材等の)研究に努めている。 ・生徒理解に努めている。
実現状況の達成度判断基準	新規不登校が A:新規ゼロ、前年度不登校が解消1人以上 B:新規ゼロ C:新規1人以上 D:新規3人以上
判定基準	C、Dの場合は取り組み方法の再検討を行う。
備考	調査を毎学期に行う。

評価項目	⑦組織運営・業務改善
今年度の重点目標	時間外勤務時間（在校）平均時間を月45時間、年360時間以内をめざす。
具体的取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画運営委員会及び生徒指導委員会、チーム会などを定期的に開催し、その内容を確実に各学年会等で伝達、共有する。</li> <li>最終退校時刻を19時00分と目標設定する。</li> <li>C4thを有効に利用して、業務の負担を軽減する。</li> <li>自動採点システムの効果的な活用を全教科で推進していく。</li> <li>定時退校日を5限日課と学期末短縮日課に設定し、業務遂行の効率化を意識化する。</li> <li>業務の平準化を進める為、校務分掌の内容や担当者を見直し、学校行事等も精選していく。</li> <li>留守番電話やコドモン等を有効活用していく。</li> </ul>
主担当	教頭
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画運営委員会や生徒指導委員会において学校全体の取り組みや各学年の様子について情報共有し、協力して課題に取り組むことがある程度できているが、それぞれの会での内容を学年会で伝達し、共通理解・共通行動を確実に図る時間が取れていない。</li> <li>業務改善面では、時間外勤務時間は減少しているが、退校時間はまだまだ遅い。</li> <li>C4thやコドモンを使って、業務を削減することができている。</li> <li>生徒玄関開門時刻（7：45）が定着したが、生徒完全下校時刻が守られているとはいえない。</li> </ul>
評価の観点	（努力指標） それぞれの職員が働き方改革を意識して、業務改善の取り組みを行っているか。
実現状況の達成度判断基準	時間外勤務時間の月平均が A：45時間未満 B：45時間以上 C：50時間以上 D：60時間以上
判定基準	C、Dのときは原因を分析し、改善を図る。
備考	教職員調査を毎学期に行う。

評価項目	⑧研修
今年度の重点目標	教師が相互に学び合うという意識をもち、計画的な研修をおこなう。
具体的取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議、企画運営委員会、生徒指導委員会、学年会、教科部会、チーム会等で、教育活動全般にわたる取り組みについて若手・中堅・ベテランが相互に学ぶ体制づくりの場を確保する。</li> <li>校内若手教員研修計画研修計画に基づき、当事者意識のある効果的な研修を行う。</li> <li>外部講師招聘をするなど効果的な研修になるようにしていく。</li> <li>石川県教員総合研修センターの主催する研修を周知し、効果的に活用する。</li> </ul>
主担当	教頭、主幹教諭、研究主任
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>チーム会を定期的に行い、計画の進捗状況や提案内容について協議している。</li> <li>時間割上に設定された企画運営委員会および生徒指導委員会により、組織的な教育活動が行われている。</li> <li>校内研修等は行われているが、計画的ではない面がある。特に若手教員への研修も含めて計画的に実施していく。</li> </ul>
評価の観点	（努力指標） 計画的に校内研修をおこなうことができたか。
実現状況の達成度判断基準	計画的、日常的な校内研修が効果的に行われているという職員が A：90%以上 B：80%以上 C：60%以上 D：60%未満
判定基準	C、Dのときは原因を分析し、改善を図る。
備考	教職員調査を1・2学期に行う。

評価項目	⑨保護者・地域との連携
今年度の重点目標	学校教育活動について適切に周知し、理解を求めるとともに、保護者や地域との連携がより深まるようにする。
具体的取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの更新や各種便りについて内容を検討し、更新・発行を計画的に行う。</li> <li>情報の把握をしっかりと行うとともに、各種対応についてコドモン等を活用し適切に配信していく。</li> </ul>
主担当	教頭
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>欠席や遅刻等の保護者連絡、学校からの情報配信をコドモンを活用して行うことができている。</li> <li>ホームページの更新を都度行い、学校教育活動の様子を伝えることができている。</li> </ul>
評価の観点	（成果指標） コドモンやホームページ等で、学校の様子が明確かつ丁寧に伝わっているか。
実現状況の達成度判断基準	コドモンやホームページ等で、学校の様子がよく分かると回答した保護者が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満
判定基準	C、Dのときは具体的な取組を考える。
備考	保護者調査を1・2学期に行う。

<b>評価項目</b>	<b>⑩教育環境設備</b>
<b>今年度の重点目標</b>	学校安全点検を定期的実施し、安全な施設になるように整備、美化に努める。
<b>具体的取り組み</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各管理担当者が安全点検の計画に沿った実施と、不良箇所等への早期の対応を心がける。</li> <li>・日常においても職員が協働しながら校舎内外の見回りをを行い、不良箇所の情報の把握と早期対応に心がける。</li> </ul>
<b>主担当</b>	教頭、管理担当者
<b>現状</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員アンケートから、殆どの職員が安全点検は計画通り実施し修繕、美化に努めることができている。</li> <li>・日常においても見回りの中で不良箇所等の情報の把握を行っている。</li> <li>・協働で営繕を行う体制作りは十分といえない。</li> <li>・不良箇所の整備、修繕は十分とはいえないが、教育委員会等とも連携しながらできるだけ早期に取り組んでいる。</li> </ul>
<b>評価の観点</b>	<p>(努力指標)</p> 校舎内外の管理箇所の安全点検を定期的に行い、協働で修繕・美化に努めることができたか。
<b>実現状況の達成度 判断基準</b>	校舎内外の管理箇所の安全点検を定期的に行い、協働で修繕・美化に努めることが A：できた B：おおむねできた C：あまりできなかった D：できなかった
<b>判定基準</b>	A、Bの合計が80%未満のときは、問題点を把握し、改善に向けて管理責任者等および営繕担当と対応を検討していく。
<b>備考</b>	教職員調査を1・2学期に行う。